

（仮称）次期堺観光戦略 骨子案

別紙 本市の現状

国内の状況

- R2年以降、新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、観光需要が大きく落ち込んだ。
- R6年の国内旅行者数はコロナ禍前の水準までの回復には至っていないが、消費額はコロナ禍前よりも伸長した。
- インバウンドは、旅行者数及び消費額がコロナ禍前よりも伸長した。

●国内旅行者数

	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	伸び率 (R6/R1)
全旅行者数	5.9億人	2.9億人	2.7億人	4.2億人	5.0億人	5.4億人	▲8.0%
宿泊旅行者数	3.1億人	1.6億人	1.4億人	2.3億人	2.8億人	2.9億人	▲5.9%
日帰り旅行者数	2.8億人	1.3億人	1.3億人	1.9億人	2.2億人	2.5億人	▲10.4%

資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

●国内旅行1人1回当たりの消費額

	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	伸び率 (R6/R1)
全旅行消費額	37,355円	33,994円	34,221円	41,069円	44,034円	46,585円	+24.7%
宿泊旅行消費額	55,054円	48,361円	49,270円	59,042円	63,253円	69,362円	+26.0%
日帰り旅行消費額	17,334円	16,596円	17,348円	18,532円	19,027円	19,533円	+12.7%

資料：観光庁「旅行・観光消費動向調査」

●インバウンド

	R1年	R2年	R3年	R4年	R5年	R6年	伸び率 (R6/R1)
旅行者数	3188万人	412万人	25万人	383万人	2507万人	3687万人	+15.7%
消費額	4.8兆円	0.7兆円 (試算値)	0.1兆円 (試算値)	0.9兆円 (試算値)	5.3兆円	8.1兆円	+68.8%
1人1回当たりの消費額	15.9万円	18.5万円 (試算値)	-	23.5万円 (試算値)	21.3万円	22.7万円	+43.3%

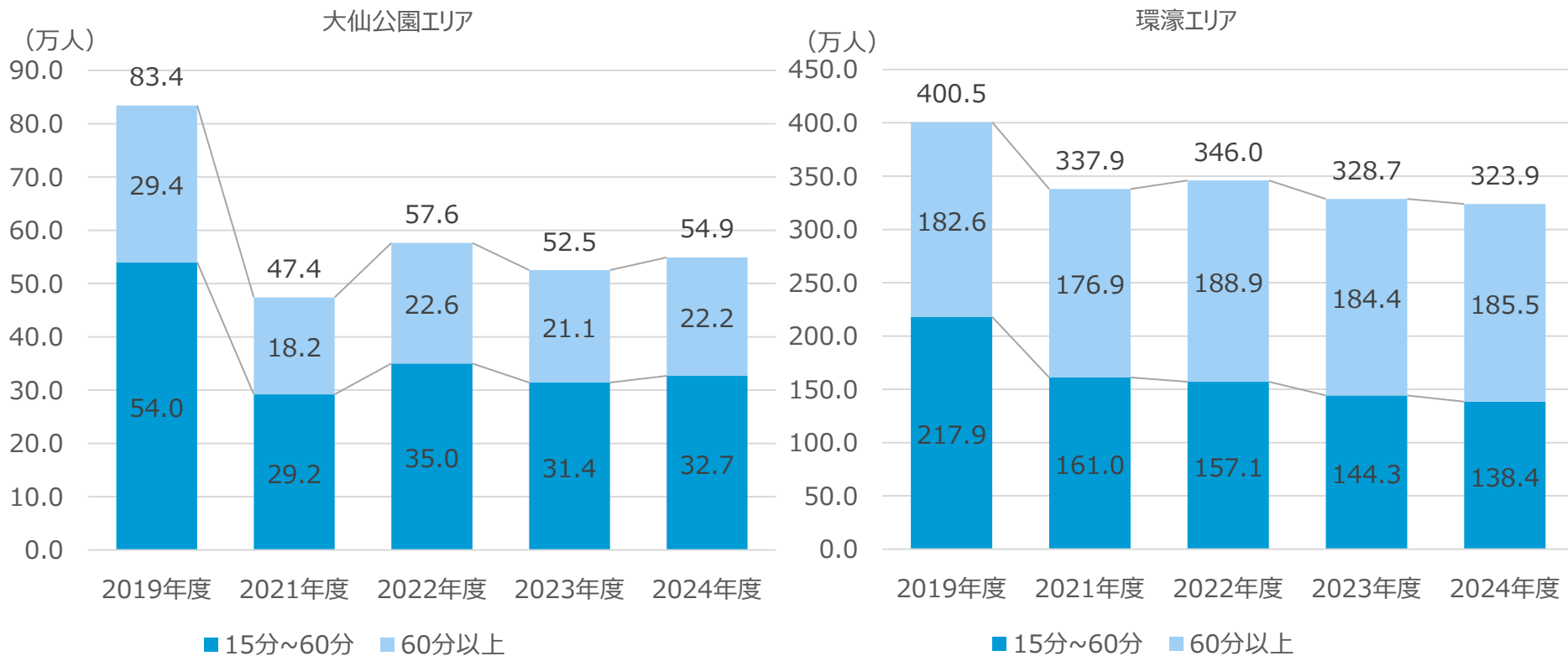
※R3年の1人1回当たりの消費額は公表されていない

資料：観光庁「インバウンド消費動向調査」

堺市の現状（来訪者①）

■ 来訪者数（市内居住者を除く来訪者数）

- 現観光戦略の重点エリアである大仙公園エリア及び環濠エリアは、いずれもR2年度に大きく落ち込み、以降は横ばい。
- R1年7月に百舌鳥・古市古墳群が世界遺産登録された。世界遺産登録前後には多くの方が来訪していた。



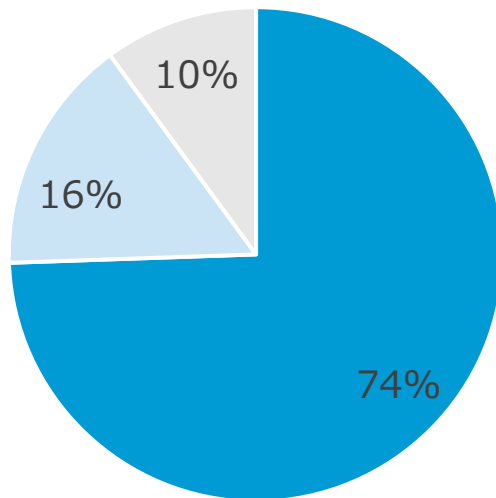
資料：携帯電話事業者の位置情報ビッグデータに基づく全人口拡大推計（KDDI Location Analyzer）
※20歳未満及びインバウンドは含まれない

堺市の現状（来訪者②）

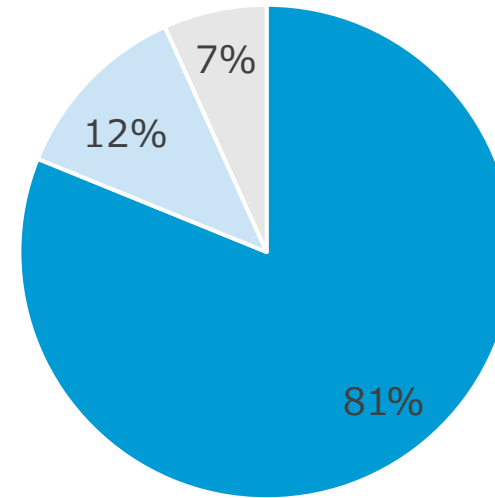
■ 来訪者の居住地

- 各エリアにおける来訪者の居住地は、いずれも本市を除く大阪府内からが80%程度。
- また、大阪府を含む近畿2府4県からの来訪者が90%以上を占める。

大仙公園エリア



環濠エリア



- 大阪府
- 近畿1府4県
- その他

※近畿1府4県 …滋賀県、京都府、兵庫県、奈良県、和歌山県

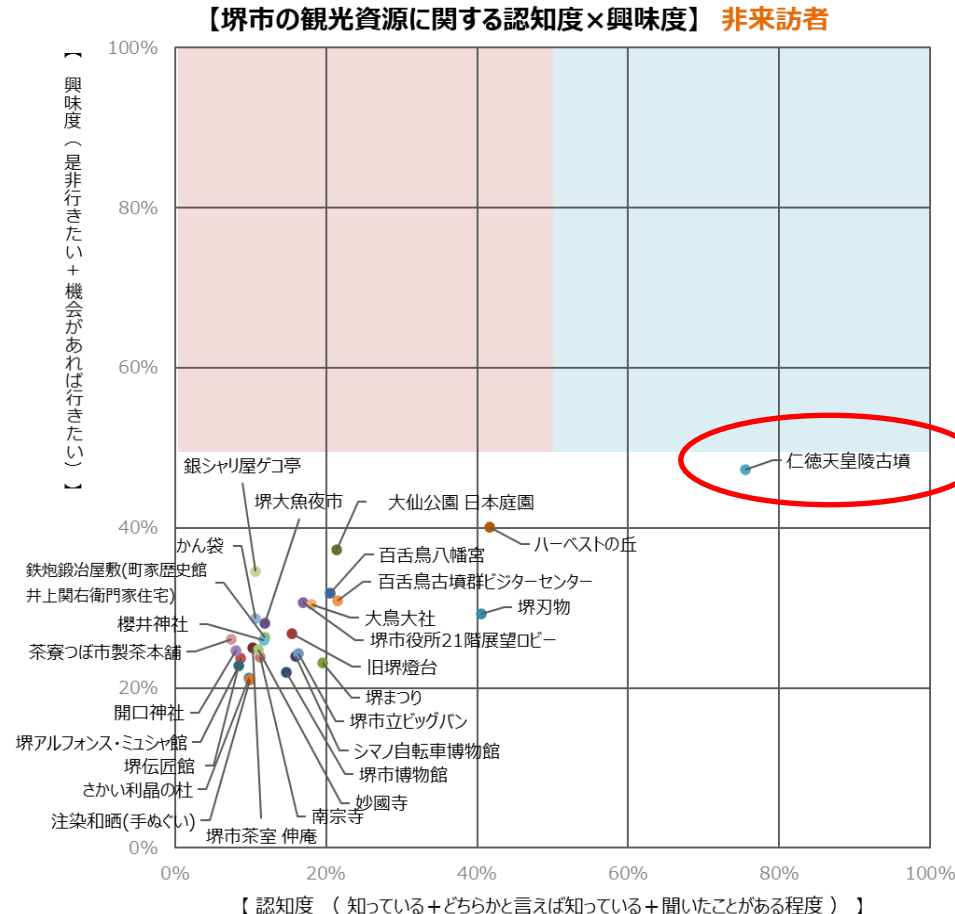
資料：携帯電話事業者の位置情報ビッグデータに基づく全人口拡大推計（KDDI Location Analyzer）
※20歳未満及びインバウンドは含まれない

堺市の現状（認知度・興味度①）

■ 観光資源の認知度・興味度（非来訪者）

➤ 本市への来訪経験がない方（5年以上前に来訪した方含む）へのアンケート調査に基づく認知度・興味度の分析では、仁徳天皇陵古墳以外の観光資源は認知度・興味度ともに非常に低く、同程度で分布している。

⇒仁徳天皇陵古墳は、認知度が80%弱と圧倒的にトップで、興味度は50%弱と他の観光資源と差は縮まるがトップである。



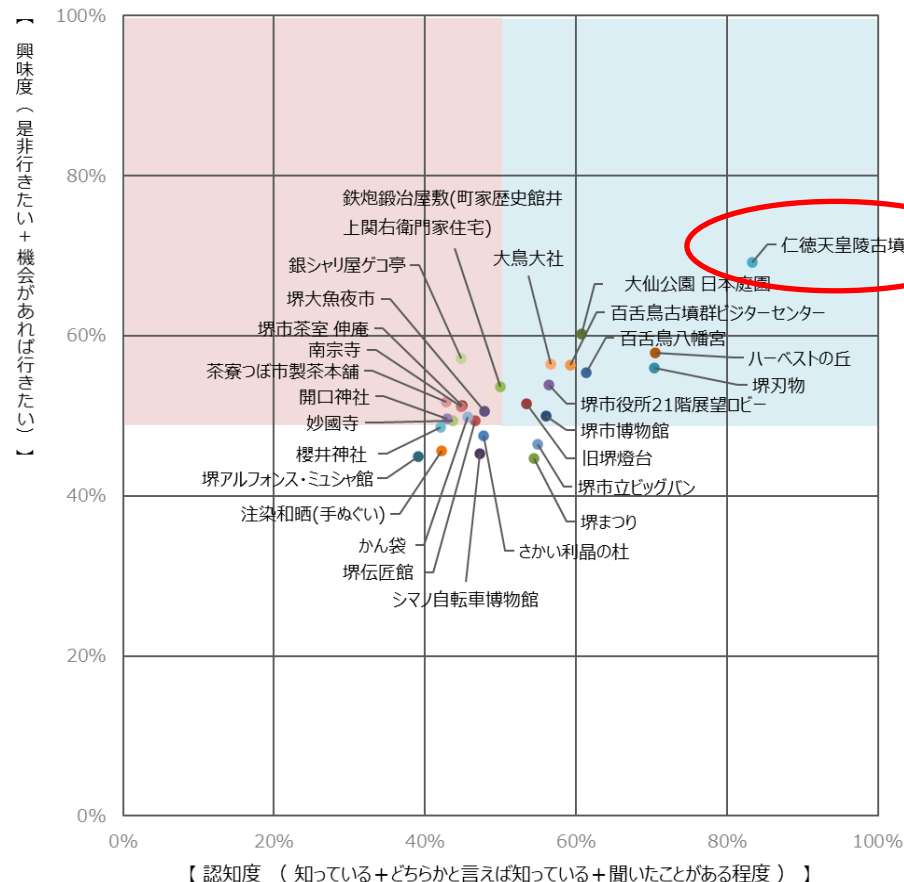
堺市の現状（認知度・興味度②）

■ 観光資源の認知度・興味度（来訪者）

- 過去5年間に本市への来訪経験がある方へのアンケート調査に基づく認知度・興味度の分析では、非来訪者に比べて認知度・興味度ともに上昇したものの、分布は一部の観光資源を除き50%前後に集中している。
- 仁徳天皇陵古墳は、認知度は80%弱、興味度は70%弱でトップである。

⇒非来訪者・来訪者の現状を踏まえ、仁徳天皇陵古墳の認知度・興味度の高さを他の観光資源に波及させ、認知度・興味度の底上げを図る必要がある。

【堺市の観光資源に関する認知度×興味度】 来訪者

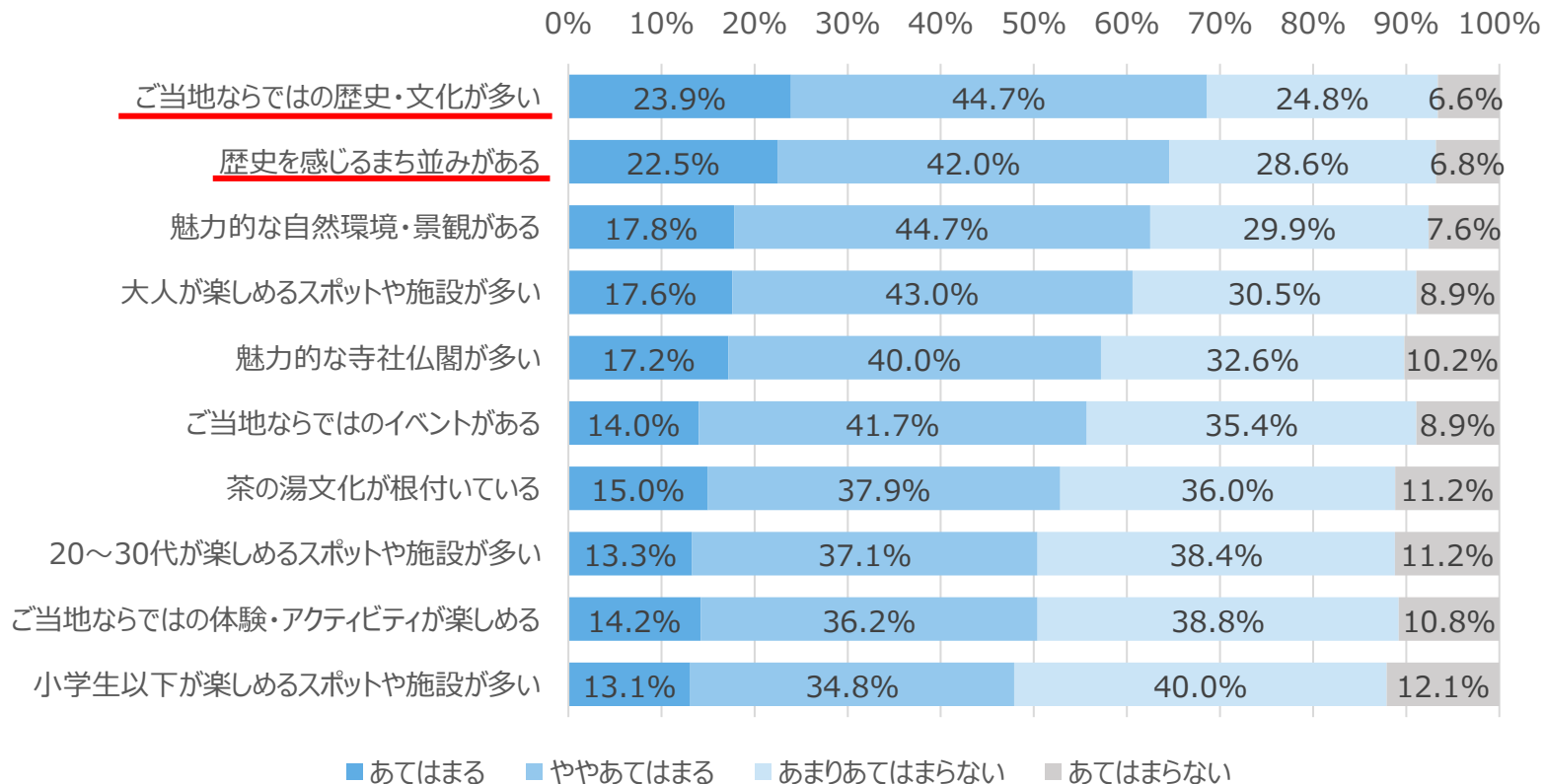


堺市の現状（認知度・興味度③）

■ 本市の認知度（来訪者からみたイメージ）

- 過去5年間に本市への来訪経験がある方へのアンケート調査では、「ご当地ならではの歴史・文化が多い」や「歴史を感じるまち並みがある」が60%以上であった。
- 一方で、①・②で示したとおり、各観光資源における来訪者の認知度・興味度の分布が50%前後に集中している。

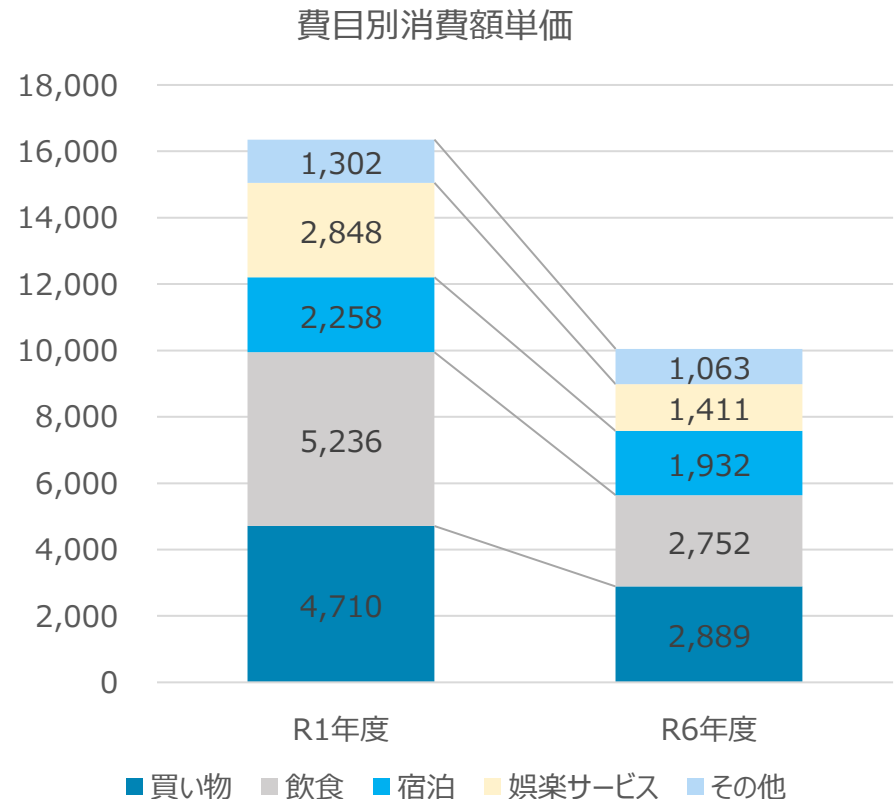
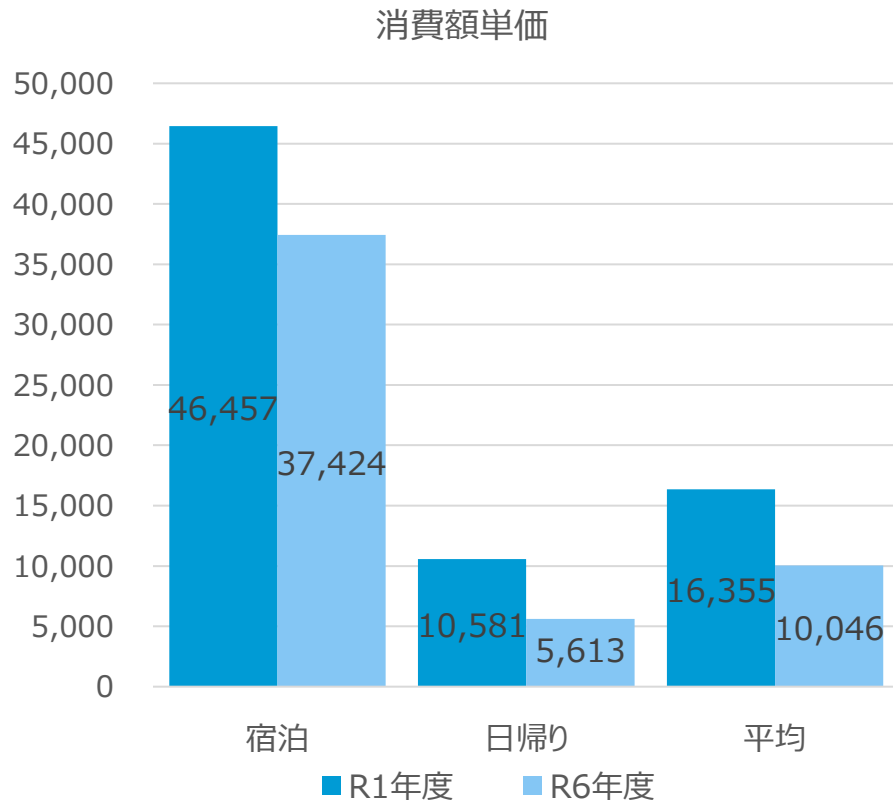
⇒①・②（観光資源別の認知度・興味度の散布）と③（本市の認知度）をあわせて考えると、非来訪者はもちろん来訪者にも、仁徳天皇陵古墳以外の歴史文化資源の具体的なイメージがついていない可能性がある。



堺市の現状（消費額単価①）

■ 費目別消費額単価

- 消費額単価は、日帰り、宿泊、平均の全ての項目においてR6年度はR1年度より減少した。
- R6年度の宿泊来訪者の一人当たり消費額単価は、同年度日帰り来訪者の6倍以上である。
- 費目別消費額単価は、R1年度では上位から飲食、買物、娯楽サービス、宿泊の順だったが、R6年度では買物、飲食、宿泊、娯楽サービスの順になった。また、最も減少額が大きいのは飲食費の約2,500円である。

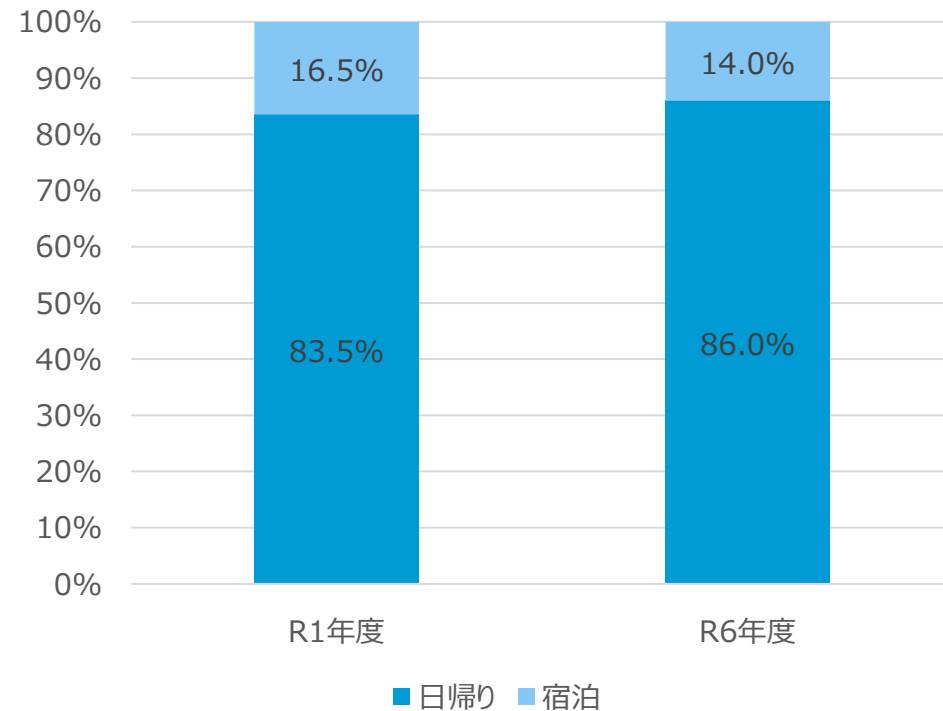


堺市の現状（消費額単価②）

■ 日帰りと宿泊

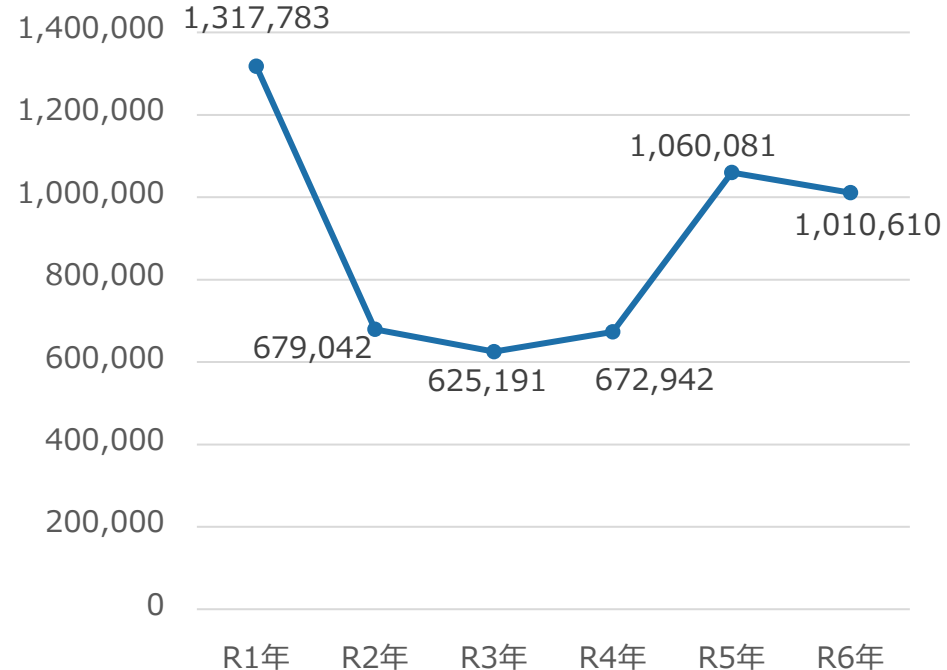
- 堺市の来訪者のうち、R6年度の日帰りの割合がR1年度より上昇している。
- 堺市の延べ宿泊者数はR2年度に大きく落ち込み、その後R5年に1,060,081人まで回復した。
- R6年とR1年を比較すると23.3%減少した。

堺市来訪者の宿泊と日帰りの割合



資料：堺市 国内旅行者に対するWEBアンケート調査

(人) 堺市延べ宿泊者数

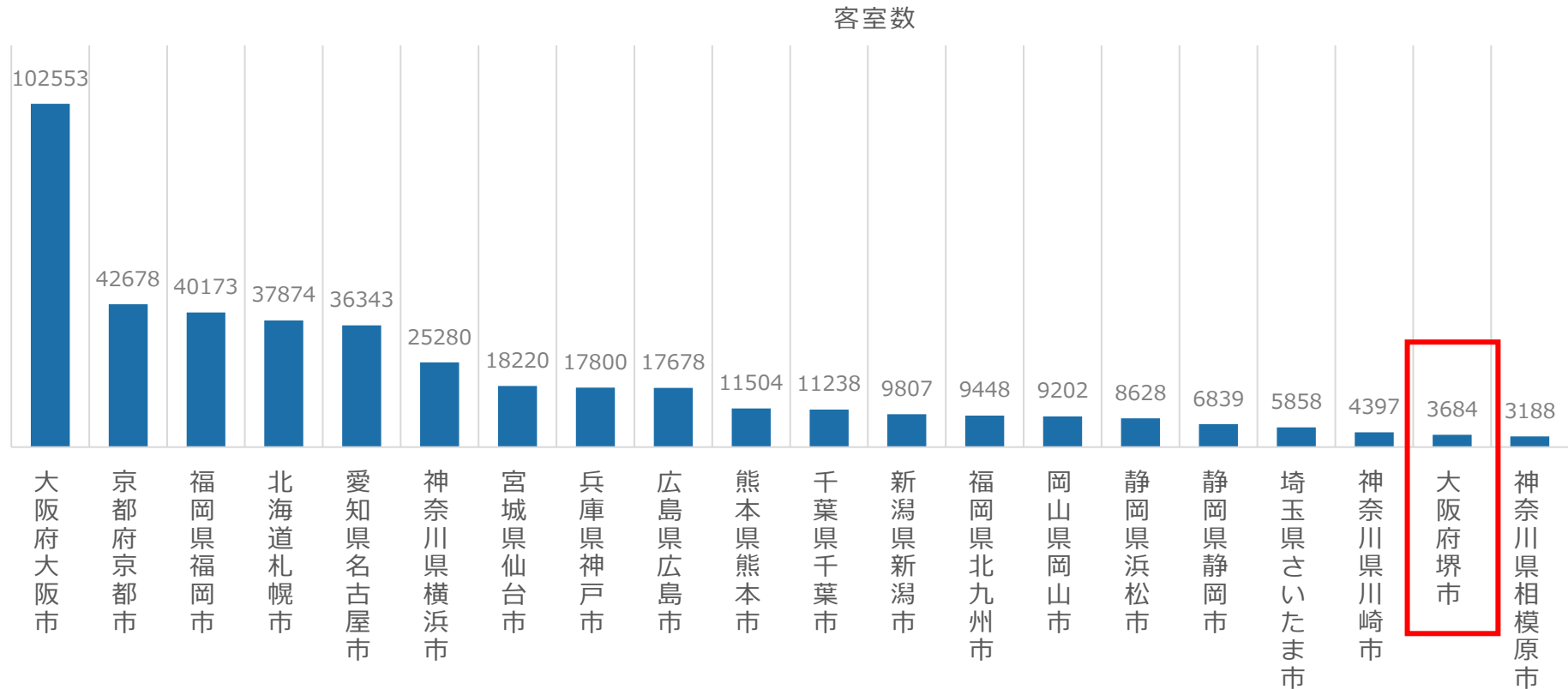


資料：大阪府「観光統計調査」

堺市の現状（消費額単価③）

■ 施設数及び客室数

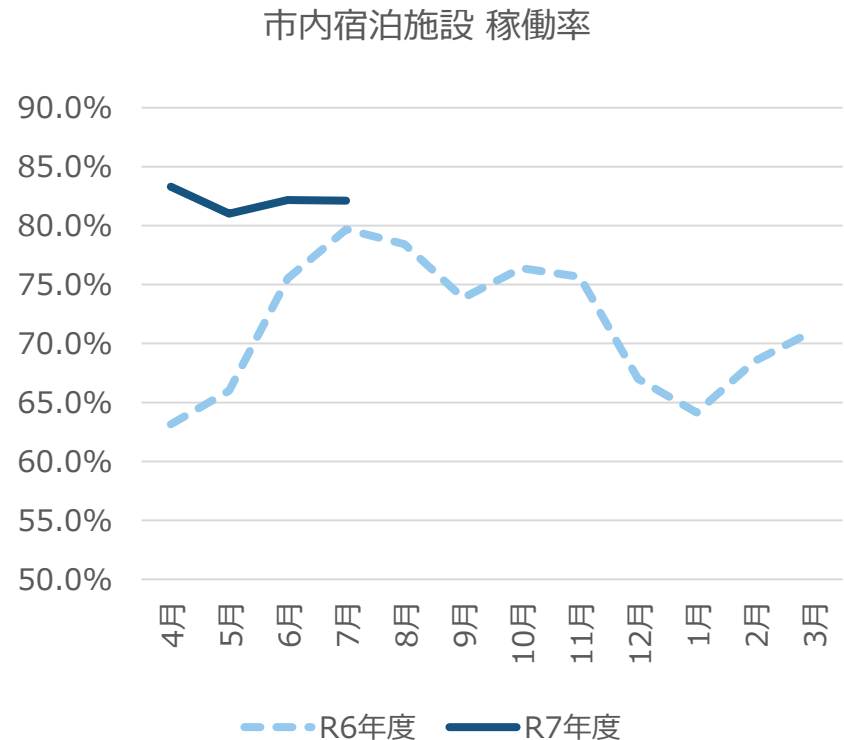
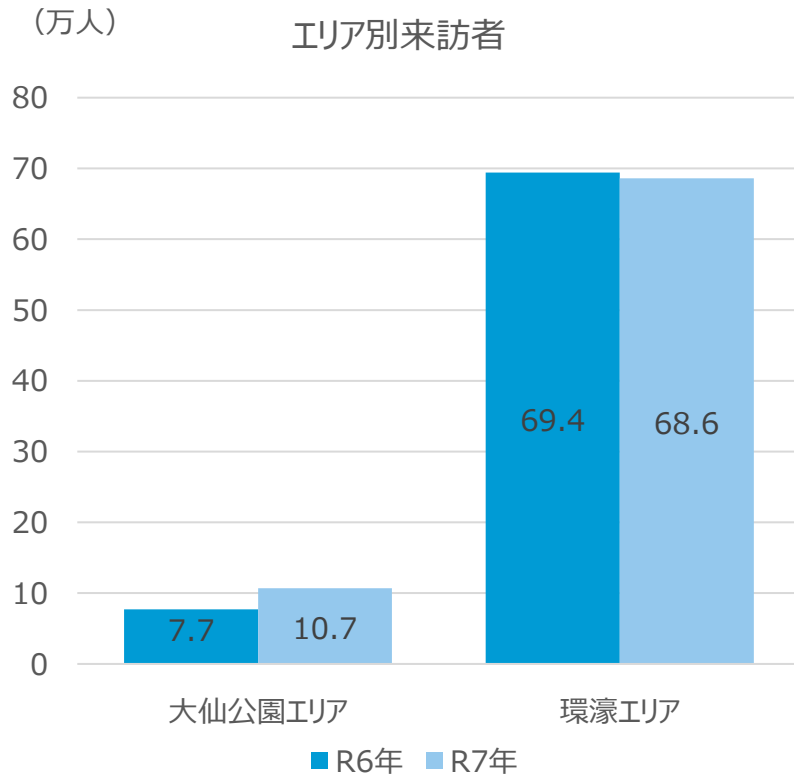
客室数は、政令指定都市の中で下から2番目である。



資料：厚生労働省「衛生行政報告例」

堺市の現状（R7年4月～）

- R7年4月13日から大阪・関西万博が開幕したこともあり、4月13日から8月13日の2エリア合計の来訪者は、前年同期比で2.2万人増加した。特に、大仙公園エリアでは前年同期比で約139%となり、世界遺産である仁徳天皇陵古墳が来訪の動機になっていると考えられる。また、環濠エリアの伸びが見られないことから、大仙公園エリア・環濠エリア間の周遊にはつながっていないと考えられる。
- 市内宿泊施設の稼働率も高水準で推移している。



資料：携帯電話事業者の位置情報ビッグデータに基づく全人口拡大推計
（KDDI Location Analyzer）

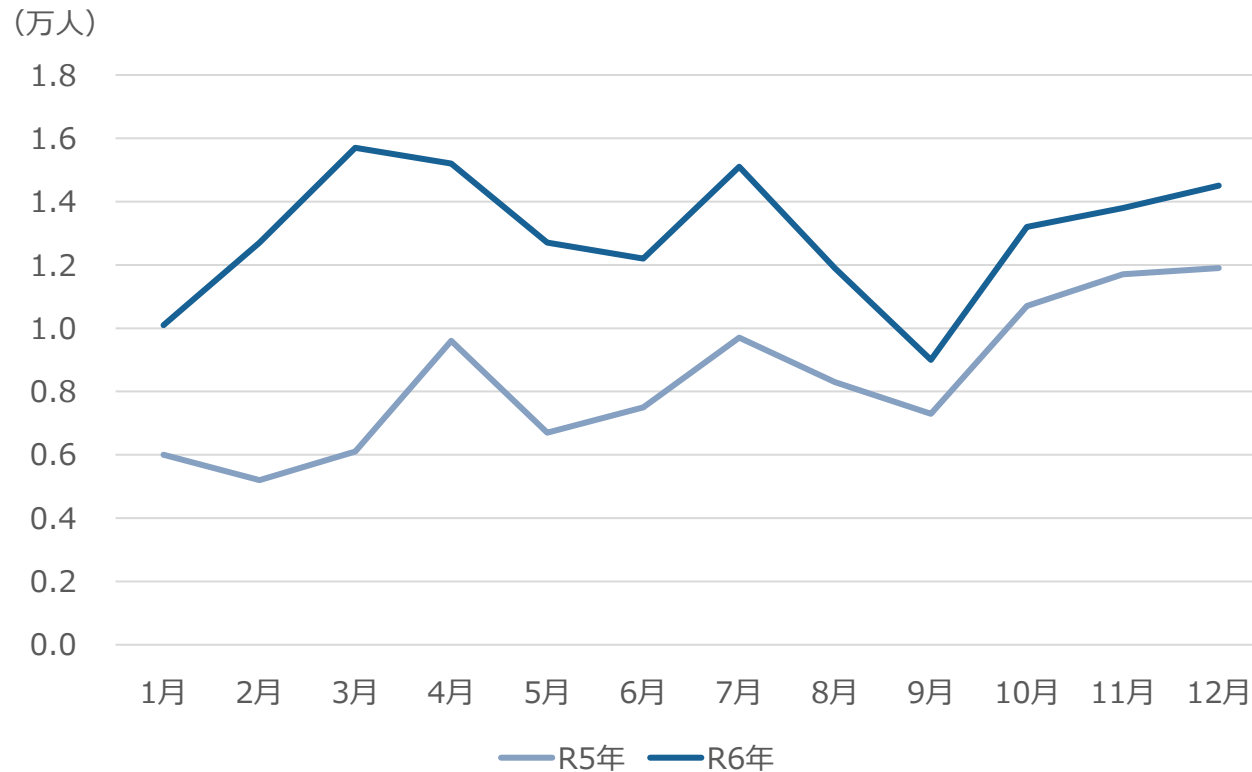
※各エリアに60分以上滞在した市内居住者を除く来訪者数で、20歳未満及びインバウンドは含まれない

資料：堺市 宿泊施設調査

堺市の現状（インバウンド）

■ 外国人来訪者数

水際対策撤廃後、堺市の外国人来訪者数は増加傾向にある。R6年に堺市に訪れた外国人旅行者は15.6万人である。



資料：大阪観光局提供